

平成 22 年 5 月 6 日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2007～2010
 課題番号：19720193
 研究課題名（和文）中世初期イングランドにおける地域社会の形成—ミッドランドの社会経済ネットワーク—
 研究課題名（英文）The Formation of Local Societies in Anglo-Saxon England: Socio-economic Networks in West Midland
 研究代表者
 森 貴子（MORI TAKAKO）
 愛媛大学・教育学部・准教授
 研究者番号：10346661

研究代表者の専門分野：イングランド中世史

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：アングロ＝サクソン史・社会経済史・ウスター司教座・史料論・文書史料

1. 研究計画の概要

本研究は、アングロ・サクソン期社会の形成と変容を、人や物の結び付きとそれが動的に創りだしていく「地域」に着目しつつ、長期的かつ包括的に追求するものである。

(1) 史料と先行研究の豊富な西部ミッドランドを主要な対象とし、「地域」の基礎として、人々が共有する経済圏・宗教圏・政治圏などの経験領域を具体的に検証する。

(2) その際、歴史地理学、考古学、地名学等の隣接諸科学の成果を導入して、封建制や荘園制といった従来の理論に回収されない、アングロ・サクソン社会の包括的把握を目指す。

2. 研究の進捗状況

(1) 初年度は、都市＝農村関係に焦点を絞って考察を進めた。具体的には、10世紀以降のウスター司教座関連文書に登場する、司教座集落ウスターと農村とがリンクした型の所領に注目し、その結合の性格と意味を追跡した。分析の結果、

①ウスターでは、司教座創設当初から、王権の保護を受けつつ司教座主導で中心地機能の強化が押し進められていたこと

②宗教、経済、防備など複数の中心地機能が漸次的に蓄積された結果として、10世紀以降には都市住民の顕著な増加も確認できるが、その中で農村領主が都市内に屋敷地を有する、いわゆる都市＝農村リンク型所領が散見されるようになったこと

③ここから、ウスターの都市的機能が農村

経済に重要な役割を果たしていたとの結論を導き出した。

近年の荘園制研究では所領の自己完結的性格を強調する立場が有力であるが、本考察は、むしろ具体的な地域ネットワークの解明こそが必要かつ有益であることを、ウスターと周辺農村との関係から例証した。

(2) 二年目以降は、文書史料の新たな利用を目指して大陸学界の成果も積極的に摂取しつつ、文書の変動と社会の変化という視角からアプローチを継続している。

特に10世紀頃から新たに登場した文書実践（割り印証書キログラフ、および複数作成文書）に注目し、その社会的背景を検討するための準備作業を進めている。比較のためにミッドランド西部からイングランド全域を対象を広げ、1500通ほどの伝来文書に目を通した結果、

①キログラフ及び複数作成文書は、聖職者発給の私文書に限定されること

②キログラフ及び複数作成文書は主として文書に記載された行為の当事者たちに宛てられるが、その他の人物による保持を目的とした三部・四部作成（分割）の文書も散見されることなどが判明した。

これらから、キログラフ及び複数作成文書の登場が、

①文書による取引（所領譲渡など）が活発化する10世紀以降に、とくに聖職者が主導した新たな政策を示すと共に、

②当事者以外で名宛人とされた人物が保証人として重要な役割を期待されていたことなどの推測が導かれた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

文書分析にあたって、各文書庫 (archive) 毎に研究の進展度合い (真正性の判断、作成背景の解明など) にばらつきがあること、文書に登場する人物把握 (プロソポグラフィ) に想定していた以上に時間がかかっていることなどの問題はあるが、史料論の手法を取り入れるなどの工夫を行うことで、おおむね所期の目標に近づきつつあるといえる。

4. 今後の研究の推進方策

文書の分析を継続する。

(1) キログラフ及び複数文書作成の際、その保証人として指名された第三者は、行為当事者たちといかなる関係を持つ人物であり、具体的にどのような役割を果たしていたのか。個別の事例を詳細に追跡する。

(2) また、ミッドランド西部については、キログラフ及び複数作成文書以外にも検討の対象を広げ、通常の一通文書の証人欄に現れる証人たちの人物研究を行う。そこから彼らの地理的・社会的出自を明らかにする。

以上より、法行為や秩序維持を巡って形成される人的ネットワークを解明し、地域社会の形成にアプローチする (成果を論文として発表する)。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- (1) 森 貴子、「アングロ・サクソン期イングランドにおける複数作成文書の登場—その社会背景の解明に向けた予備的考察—」(掲載確定)、『愛媛大学教育学部紀要』、57巻、2010年、査読無
- (2) 森 貴子、「アングロ・サクソン期ウスターの都市的発展と司教座—所領経済の解明に向けて—」、『西洋史学論集』、45巻、2007年、43～59頁、査読有

[図書 (翻訳)] (計1件)

ウェンディ・デイヴィズ (編) / 鶴島博和 (監訳)、慶應義塾大学出版会、『オックスフォード ブリテン諸島の歴史 第3巻 ヴァイキングからノルマン人へ』(刊行確定。森 貴子担当分は「第三章 交換、交易そして都市化」および「第六章 書くこと」)、2010年